

繪本
豐臣勲功記

初編
四





繪本豊臣勲功記初編卷之四

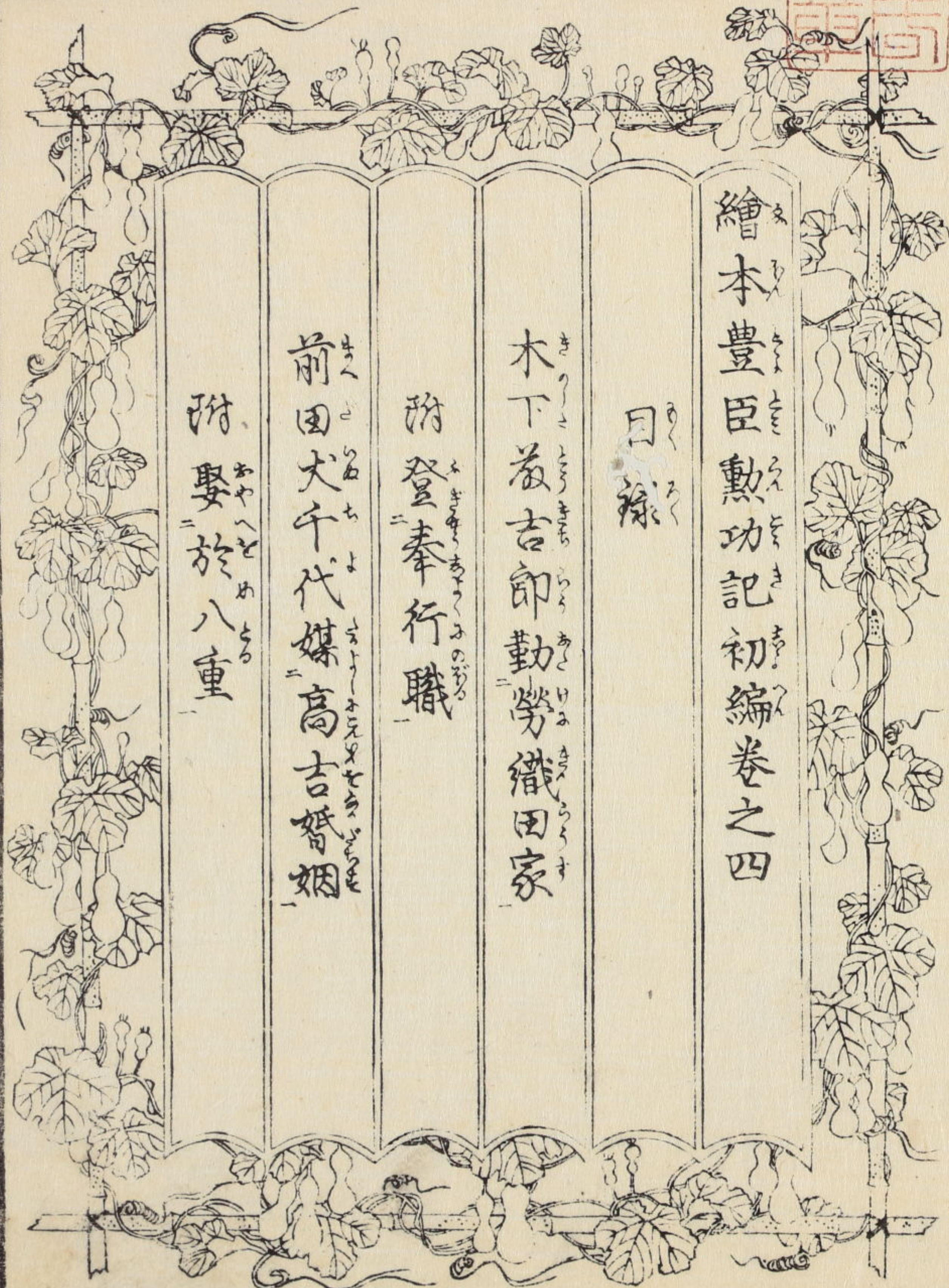
目錄

木下菴吉郎勤勞織田家

附登奉行職

前田大千代媒高吉誓姻

附娶於八重

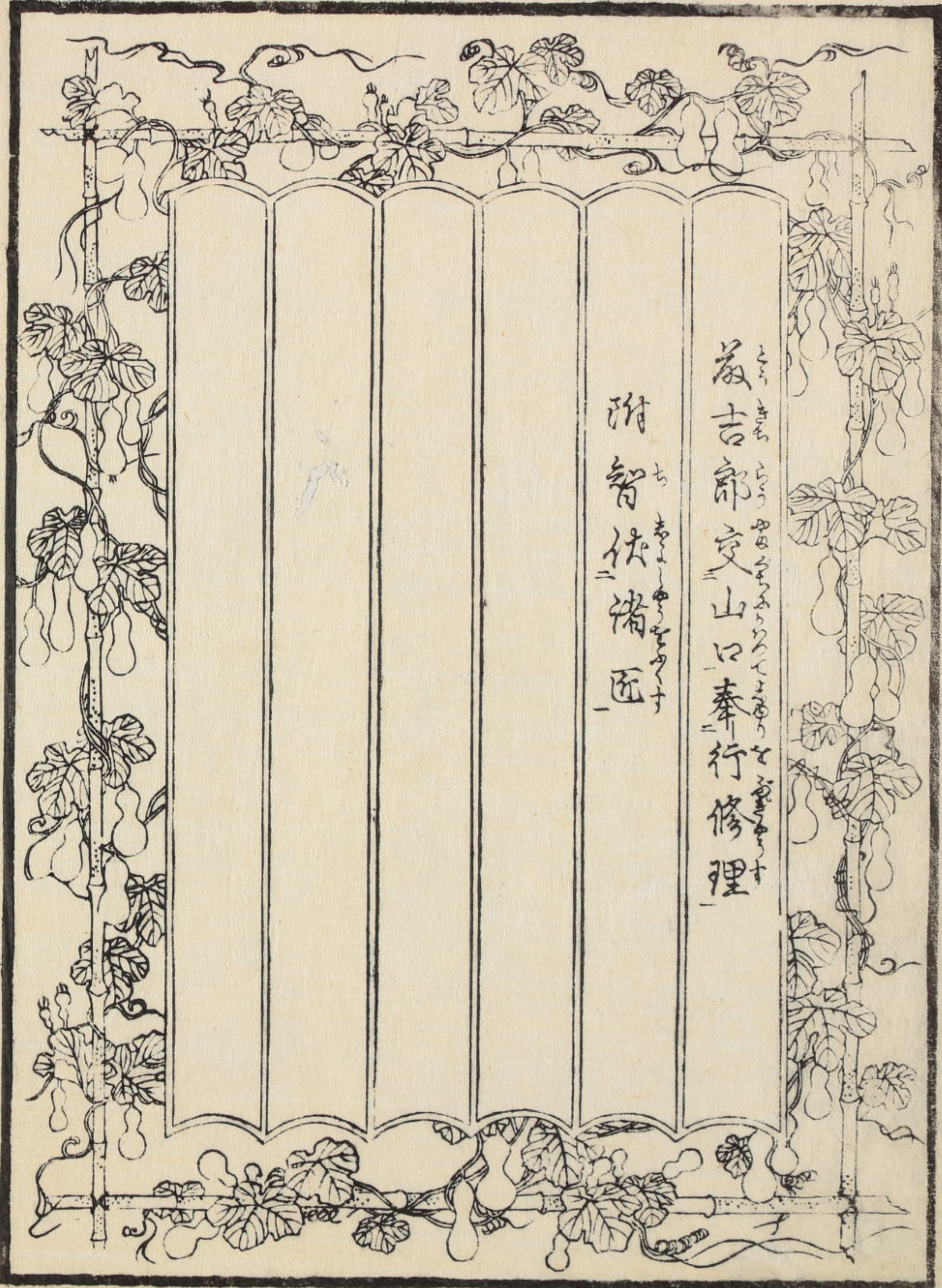


繪本豊臣勲功記初編卷之四

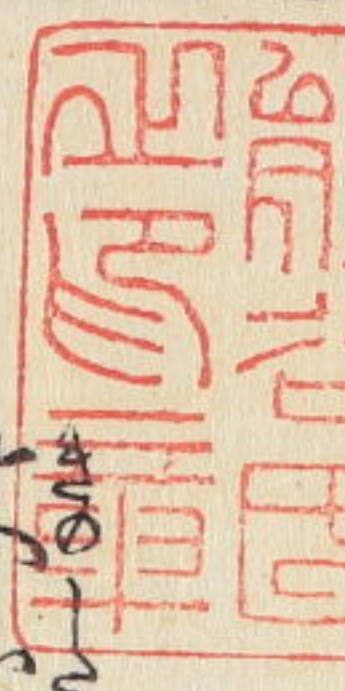
目錄

最吉郎交山口奉行修理

附智伏備匠



繪本豊臣勲功記初編卷之四



江戸 櫻澤堂山 編輯

本下及吉郎勲功家 属登奉仍職

然小あらし忠懸小あらし... 小牧山の英雄と小孫と稱あるも鳥狩小あれど結句せん... 及吉郎が大膽小勇を投とく慕慕せり... 為山小町とくく落さるる... 言出され這節あ小あれ... 言上... 及吉郎の言とて... 及吉郎の言とて...

属しつり。响お信長又ち弟つと召出し。後吉布が出西と云。是
 並べしと命せらる。是も因て又ち弟つ。其夜及吉布を招停せ。
 是中が出產の過國の何地なるかかろくせり。父母親族も有
 り。皆これを知りせよ。と信お吉布を笑て憫申す。遠く定め
 て皇君より。宣せよりのさうん。小子由緒も言しあげぬお。唱し
 扶助あふる誠よ智勇の大徳と僧つぐ。信る戦國の時節
 されば城中の諸士執疑を起し。他國の境見とのを懐へば。若
 かも渠等の心を解くと所無あらるるん。厭も若居の終
 るるを今い何とつ。さういさん。小子が父の本中孫助冒者とて。
 故殿の所代六仕へ奉りせ。弓部之執士つり。戦場おあつと
 孫助といひ。歩引自由なるぬせり。信をてて故々そり。去

民の中お果居し。まりぬ存生のさうく。故殿の悲海沙う
 ざりしを物憶せり。定心先君所在世中の日記もあらん。お個
 あつ。的方りあつ。と所て及井の。さここ七故殿の所と死より。
 せ公ありつる家つ。う等果る。ぬ由緒る。然く。遠こと
 言伏せん。と又ち弟の所へ出。及吉布の言せし如く。伸られ。バ
 信長巴くと笑せむ。猿めいよくも走る奴なり。然し言伏お
 猶るま。予が意お忠也。あり。お速孫助が仕給を個よ。其院
 あつ。六徳老居へ。知し。せよと命せらる。之も後々執個え。区お
 弓部士本中孫助と歴然つ。遠响をためて徳老居。境見つ
 ぬて安途し。つり。借為。吉布の。新系られども。二代のせ。と云。
 信お父孫助の勤功もある。つられば。父領来の扶持を賜へ

仕道も先代がかりするべしと命出されしども。及右衛門忠盛を
 辞しと言状したるは父の功勞あるをりて。那景の侍祿をも賜
 るべけれど。小子ゆへす切なく。自分の所扶助なきに。那景は
 中れお急の功を遂りしゆふて。恩祿頂戴つるまのらぶ。冥
 加よろしくゆらちん。且先代の由緒おより。恩澤と蒙るべく。先
 代の過とりの。所除籍をも蒙りゆるせん。如何に此の身
 一を所覽遠く。ふしかりぬふ。と特々勸解投く言はれ。信長
 愈々感悦申し。慈母汝が恩を。と遠より累日お言はれ。公
 口の実言と窺えられ。慈を本卜及右衛門朝より。父中へ。と
 勤勞も程を上げむこと。以上の火と拵ふが如し。然て信長馬を
 責めんと。及朝お出らるる。遭くもれども。何の天ととも。及右衛門

一軒お出仕し侍居ること。一日も怠りぬ。其年漸く暮る小
 および。寒風凜々として。宛も刀の如く。りし。が。秀に。信長
 るれば。凍れも厭ぢ。おの。朝より。意。心。馬を。責。られ。る。有。日
 例より。甚。冬。玄。冥。へ。記。放。お。珠。お。夜。の。香。積。て。六。七。す。小
 及び。一。人。猛。風。面。を。裂。け。如。し。赤。雲。後。お。呼。む。の。を。思。白。さ。ご
 り。小。明。ざ。り。し。玄。冥。お。踏。める。者。あり。信。長。声。け。推。せ。と。宣。は
 及。右。衛。門。と。奮。つ。り。信。長。流。れ。汝。より。外。他。に。る。た。や。と。言。ひ。お。ふ
 慈。心。何。羽。より。も。出。所。の。別。限。登。き。扱。い。す。ご。推。も。柔。上。せ。よ。と。こ
 慈。心。お。ふ。お。慈。心。お。ふ。汝。の。い。ふ。し。と。慈。心。お。ふ。し。と。唯。く。及。右。衛。門。お。朝
 の。と。お。い。ひ。ち。は。ね。細。く。あ。お。出。所。より。一。時。已。お。お。經。候。し。侍。り。ぬ。
 君。を。ち。り。意。り。お。と。ぬ。と。其。后。と。し。と。日。を。る。中。の。を。寐。念。お。私。を



信長風雲の
蚤朝小菘と
藤吉郎が
至忠を
感ぜ



道やある。と言伸のびり上う後ご次じ。殆たいてい感かん佩はいあはせられ。下げ郎らう小せう伝でん
 氣きをを込こむこむこ。神しん妙めうなり神しん妙めうなりとと裸はだかせらるせるる。及およ吉きち春しゅん
 希き從じゆ下げ勤きんの精せい不ふ精せいのの公こうより出いるる。ととやや公こう正せい列れつるる。ととたたの
 外がい小せう苦く勞らうののななくくてていい。今いま躬こ天てん寒かん地ち凍とうままどど咱わが軀こののここめめとと
 存ぞん在ざいれれのの指さししとと累るいししくくももいいららいいだだ。遠とほ方ほうのの皇みかど子こ攻せくくるる方ほう
 るるれれ。咱わが身みががううつつがが力ちからるる。然しかるるをを自みづか分のぶんのの御ご意い符ふこことと
 却かえてて遠とほ方ほうのの仇あひだををんんねね。とと言いひひ。ああどどままいいのの信のぶ長ながもも。実じつ小せう奇き特とくの
 了りやう勞らうるる。然しかるるををもも勤きんめめよよやや小せう猿ざるよよくくせせよよとと戲あそ言いひひ。此こゝ
 馬うまをを責せむるる。終つひ日ひののりり。邪よこしまのの如ごとくく。身みをを公こうににてて骨ほねをを惜おしまますす。とと勤きん仕し
 志しななれれ。小せう猿ざるくくとと寵ちゆう愛あいせせくくれれ。諸しよ士しもも勝かちるる。思おもひひぬぬゆゆ也や。也や
 羽はね自みづか然ぜんとと如ごとくく。姪めいをを勝かちりり。其その名なのの呼よぶぶをを小せう猿ざるととののとと地ち皆みなをを也や。

朝あさとと言いふふ。けけとと及およ吉きち春しゅん郎らう愉ゆくく。熱あつししのの系けい来らい兵べい替かををぐぐれ
 らられれ。雜ざ漂ひょうぶぶどどとと笑わらせせるる。小せう猿ざるももれれ。所ところにに然ぜんのの様さま
 會あひひ及およ吉きち春しゅん郎らうをを招まねくく。咄はな談だんささせせるる。とと。宋そう田でん撞つ六ろく少せう属じゆくのの及およ吉きち春しゅん郎らう
 をを求もとむむ。小せう招まねきき。某その氏しのの書かき絶たつ話わをを知しるる。とと所ところ今いま宵よのの志し誓ちかせせるる。
 何なにももああれれ。笑わらふふことと。傳つたへへ所ところとと是こゝににれれ。及およ吉きち春しゅん郎らう拜はい
 するる。色いろななくく。兵べい小せう信しんせせてて説せつ出しゅせせるる。撞つ六ろくもも殆たいてい笑わらふふ。小せう投なりり。真ま
 一ひととと酒さけ意いをを催もよほすす。其その言ことばもも危あやししををめめ。撞つ六ろくもも后ご天てん益えきのの
 二ふた献けん三さん献けん傾かたむけけ。辭ことばのの余あまりり。小せう撞つ六ろくとと嗔ちんをを撲ぶへへ。併あししはは解とけけしし。
 及およ吉きち春しゅん郎らうをを指さしてて。傳つたへへ所ところ。某その氏しのの方かたのの小せう功こう者しやとと所ところ。六む會かいのの術じゆつをを
 傳つたへへるる。とと同おなじじのの言ことば。門かどののふふああららねねどもも。其その方かた計けいのの
 ののよよまましし。所ところにに傳つたへへるる。ととささしし。倚よりりてて撞つ六ろくがが。ふふととり



木下冬夜小
按摩一々
此田勝家
暴慢を
振え
とん

却りて腰を揉卸く。按摩しなれば、傷もすく。傷を治し、
勿く、孫技小やりのる。新件小功者なれども、かむらくも
練材小して、武士の業小の不道あり。若くは、旬小も、
と。某氏の平日、度々しく、大層おと所つる。次は、小それも
修く、ちやと、嘯問、は、吉希、別小、
如き、大彦元小、足洗、せんと、男小の、と、
勃然と、く、起揚、は、及、吉希、と、
それを、恨、と、我小、
止、と、
妻、
小、
小、

身と違ると、死、
故小、
樹、
ゆ、
伏、
あり、
僧、
を、
自、
あ、

自己かみれがそれふまのを止とどむまひ。却かえりて咄はなせはなすはなすはな。怒いらいるはなすはな。智ち恵えあるはなまはなき
人ひとのはなよよももあるはなまはな。陰いんのはな律りつとと陽やうへへ曝はくししくく。和わせせのはなふふもものはなははと
怖おそるはな。乳ち色しきををふふるはな。遠とほききのはな律りつよりより後のちくく。柴しば田でん羽う葉はが
確たつ執しつのはな種しゆとと後のちるはな。ひひやや作しやうるはな。又またもも信しん長ちやうのはな及および吉きち希きがが勤ちん
小こ倉くらのはなたたとと甘かんトト。遠とほ上じやうのはなもも渠みちがが播はくききとと試しををややととおお奉ほう
されられるはな。をを来らい織し田でん家か小こ用ようのはな炭たん薪しん一いつ箇か年ねん小こ裁さい件けんとと
先ま其その甚しん乃の小こ祈せいららるはな。小こ千せん石せき有ゆう余よとと善ぜん人にん。りり次じ小こ及および吉きち希きとと
唱なう出しされられ。平へいがが厨しゆ上じやうららるはな。炭たん薪しんのはな年ねん小こ裁さい件けんああらら使しせせん。
量りやうをを試しよよとと官くわんああとと暫ざん時じよよこれこれをを美み量りやうとと言いふふ。ああららるはな
試し量りやうのはな。これこれをを改かいせせ。甘かん乃の人にんがが四し分ぶんのはな一いつ小こ當たうりりととせせ。これこれはは
よよつつてて及および吉きち希き小こ已い来らい用ようひひ。中ちゆう減げんあありり。隋ずい以い試しよよとと課かせせ。

くく。長ちやうてて所しよ奉ほうせりり。既すで小こ承じやう祿りく元げん年ねんのはな冬ふゆもも善ぜんとと。明めいききとと
二年にねんのはな正月しやうげつよりより。及および吉きち希きのはな使し士しるるれれどもども。君きみのはな命めいをを世せににてて
炭たん薪しんのはな皆みな行かうととななすす。厨しゆ使しをを指さし記きししるる。小こ用よう由ゆうべべききらら。大だいよよ
用ようひひ。費ひのはなううららんんのはな毛もうをを除のぞきき。後のち頭づかよよれれ件けん小こととううひひられられ。正月しやうげつ
のはなるる若わ干かんのはな徳とく分ぶん入いりりてて。然しかもも不ふ自じ由ゆうなるる。信しん長ちやうととれれとと
所しよ。也や。然しかとと有ありり。然しかとと有ありり。皆みなたたれれ。已い来らいのはな役やく人にんををもも。
公こうとと及および勤ちんめめぬぬ。及および吉きち希きのはな量りやうるる。小こ丁てい寧ねい小こ不ふ足そく
なな。渠みちのはな心しんをを勤ちん力りき小こ委いねね。息いきりりのはなまま小こ依いててななすす。已い后ご及および吉きち希き即じつ
がが軌き則じつををりり。信しん方ほうのはな指さし記きのはなささららるる。とと亦また米まい穀こくのはな皆みな乃の小こ為なるる
らら。小こ及および吉きち希きのはな始してて技ぎ術じゆつとと定さだめめられられ。三十さんじゅう斛こくとと賜みりり
てて役やく人にんのはな員いん小こかかららるる。高かう吉きちのはな恩おんとと備びしし。其その職しやくをを勤ちんるる。死し。

瘡と捨ぐ如し。然る小及井又右衛門の是もその部首とりひ
 及右衛門を懇切小欽付られざる言も。厚意小感下と昨又の
 如く敬号ひ殊小熟練と賜し。開も這及井又右衛門を
 尚國津島の百姓なりし。其家甚富榮。賊突あまし。故へ
 くれは先代より織田家小出入し。信秀公の在せぬ。軍上り
 かよひ。厨上の賄おやく。調遣せしむ。帯刀を許されしり
 一が。邦る。戦國の有せぬ。盗賊多く。緋細し。あましく家財と
 奪られられ。織田家へ。移ふて城内へ。后位のりとも許されしり。
 従類と皆率俱し。清洲小移し。位よりし。信秀あつく
 恩深せし。又右衛門の真加のさめと。何まれ。役目と。於ひる
 小廚は。邦を命属られ。あましく。あましく。被率首と。笑りぬ。
先祖の
大蔵

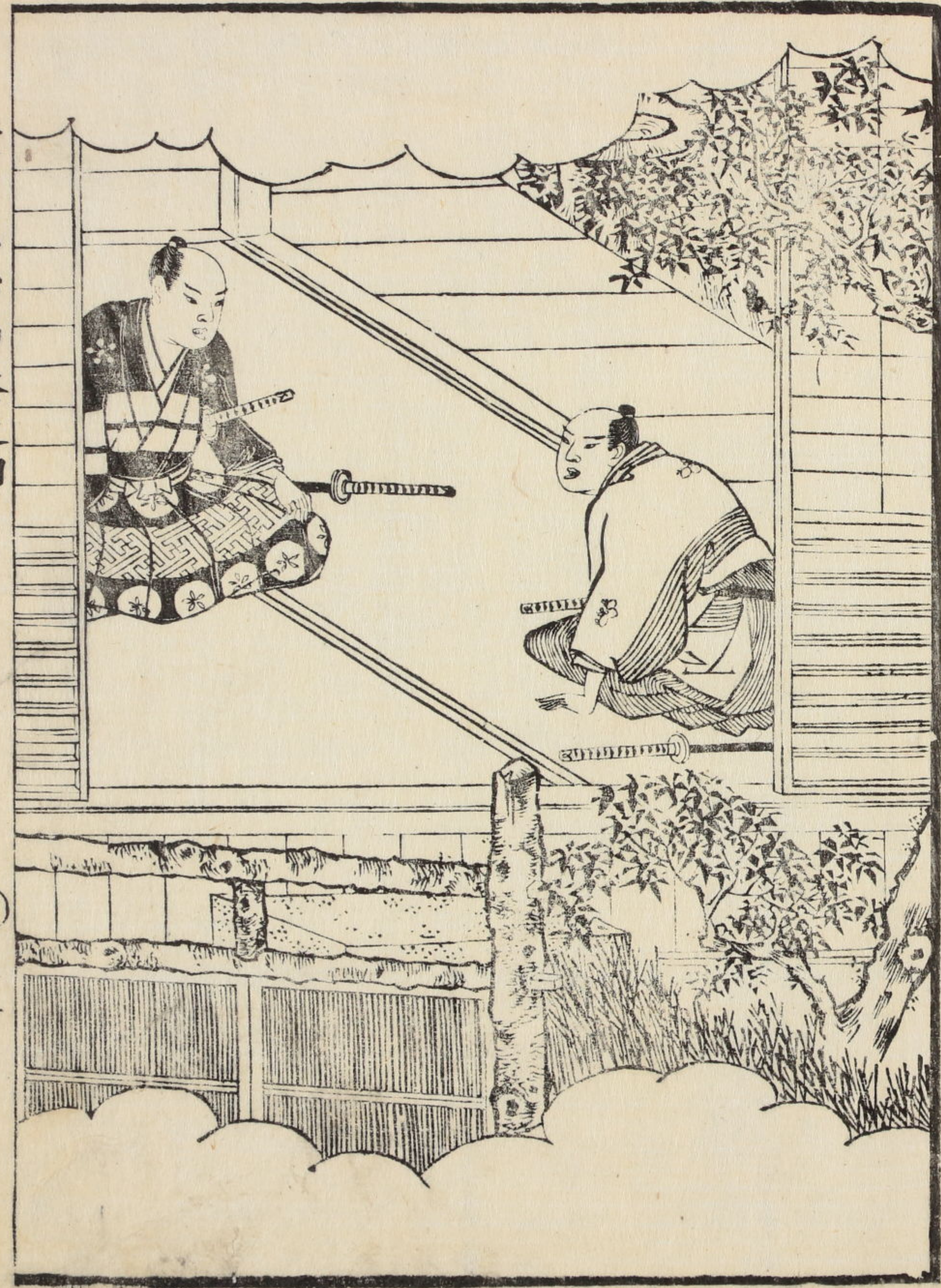
海東郡小
 赤智多郡
 所あり

謙豆公の孫式部守常の 遠の又右衛門 藤井の名字一本小の藤井の孫
 後胤と。其の及右衛門と云ふ 藤井の孫と云ふは藤井の孫と云ふは藤井の孫
 の二女。小三の子あり。嫡子と。又右衛門といひ。才二の
 女子と。於八重 高島寺の御月姫の禪尼と稱す といふ。才三も亦女子あり
 一。兄弟とも。受業あり。一。姉。今年十九歳なり。妹。小智
 慈明。され。城中の武士。那遠と。懇意し。七言。婦とも。亦何なる
 不謂。小や。姉。於八重。縁。終のり。と。父。小好。母。父も。國中。終。が
 若。られ。バ。お。侍。も。せ。せ。と。し。り。然。る。小。信。長。の。所。屬。從。茶。田。丸
 平代。とり。ひ。人。あり。今。年。廿。二。歳。ふ。て。顔。皓。く。材。重。く。て。武。勇
 揚。き。一。壯。士。な。り。中。緒。へ。尚。國。海。東。郡。荒。子 海東郡の荒子の地
 小。田。小。後。一 小田小後一 の。城。を。茶。田。徳。助。管。束。利。勝。が。六。男。な。り。兄。弟。の。女
 こ。ある。中。小。最。揚。き。一。最。量。な。り。と。及。井。が。姉。娘。小。執。し。

しつ。媒めりて懇望志する小。於八重ハ心小預ありとて。右虎
 皆儀と遠きられハ。父もを伴小勸めごとく。然ハとて大干代へ
 級と善くハ。僕ぎ〜ハとまらるる。懇意と記さるる。後僕ハ。
 ちハ何ハ做んと幸柿〜ハ。小大干代ハ。い〜ハ。僕僕さるる。小を為井
 ちと〜ハ。迷惑せり。遠小本下。後吉野ハ。い〜ハ。位郎ハ。死ハ依ハ。
 後井ノ郎。聞られハ。姑ハ。夜ハ。小〜ハ。悪〜ハ。とて。又赤井ノ地面
 小殿とめす。遠小居位と定めらる。素本下と後井と去別ハ。
 懇懇あるとり。遠次茶田ハ。縁後と後吉野ハ。小お憐〜ハ。れ
 ハ。吉遠ハ。做桃〜ハ。合大干代殿ハ。縁後ハ。小子絶よく
 際略〜ハ。うま〜ハ。徳思〜ハ。せり。小さん。所親子安途あれ〜ハ。と
 宅小帰りて。衣履と更め。蚤速茶田ハ。郎ハ。小〜ハ。りぬ。

茶田大干代 媒高吉 婚姻 属 娶於八重

流俗言傳ハ。仇儻合性あり。と。且月ハ。中霊ノ部も。い〜ハ。んぞ。
 自然と具る會あり。恒り。先年。後名小曾せ〜ハ。捨女ハ。崑
 崑小遊で。實ある。律と悟〜ハ。む。今遠小。仇後井ハ。姉公ハ。
 泥と。空才ハ。蓮苗と。好〜ハ。る。如〜ハ。し。其ハ。赤〜ハ。じ。好〜ハ。す。本下。後吉郎
 ハ。大干代ハ。小對面ハ。貴公と。素後井ハ。娘ハ。所所。是あり。よ〜ハ。し。
 然〜ハ。ども。渠ハ。小ハ。所謂あり。ハ。後更〜ハ。さる。心なり。と。されハ。バ。母ハ。希
 止あり。と。まらる。や〜ハ。ら。思召。智〜ハ。る。と。さる。と。〜ハ。し。父ハ。又。右。赤井ハ。快。よ。ろ。こ。び
 後ハ。い。り。小。心。不。存。され。ども。皆。姻。の。心。を。う。り。ハ。父。母。の。心。の。恐。お。も
 可〜ハ。ら。ま。今。強。ハ。嫁。ら。は。と。も。其。中。和。合。做。ら。る。時。ハ。俗。老。の。賢
 か。が。つ。ら。〜ハ。し。一。端。祥。の。強。ハ。よ。り。ハ。尾。非。迎。娶。あり。と。も。つ。お。小



藤吉郎
即智弁
犬千代
緑談
説破

雞塚の時のつゞ。和の肥とぬま不候。氷入の外遠澤未ご
 知りのなれば。宜しうぬ作もあるま。河村のありやいふを
 理責て宜むれば。大千代听てうら悲路。いふおも先日又お衆つて
 するりふし。のれり。を登速承。客の返答あつて。今又遠候
 不候ふこと。折面目を缺といふも。是内便の辨なれば。無理不
 所。そいふをま。然りといふも。彼女。いづる條。由お衆の
 ざるや。其説と承。唯面目も遠道理。貴公も妙き。七替
 候。是るうら。を所。留存。ト。生らる。一。承。听。に。返。答。せ。ん。と。伺
 詰。られ。て。有。係。の。言。吉。何。と。い。ふ。ま。ご。為。意。も。な。く。横。他。と。逼。て
 あり。なる。が。一。端。及。井。小。子。と。承。合。を。解。理。の。遊。び。と。ん。後。小
 退。き。も。ま。ま。下。存。や。せん。た。や。と。思。慮。せ。し。が。自。分。小。ひ。き。文

候。せん。と。さ。く。さ。り。倚。声。を。辨。め。さ。ま。を。小。回。を。を。あ。り。の。明。白
 小。謂。を。ぬ。も。道。り。な。ね。バ。実。を。あ。じ。言。ま。す。し。り。と。彼。娘。の。顔。を
 よ。り。小。子。を。れ。と。謂。縁。つ。る。と。娘。も。大。槩。好。む。せ。り。い。ま。も。祝。あ。い
 言。ざ。れ。ど。も。を。た。う。ち。小。を。思。小。も。形。を。遊。し。又。お。衆。つ。ぬ。も。云。し
 殺。で。ん。と。存。せ。し。機。會。又。お。衆。つ。今。日。自。を。招。ぎ。是。下。よ。り。の。承。の
 律。娘。が。好。む。を。さ。り。し。の。ま。を。自。小。濟。り。て。遠。上。の。隣。家。の。好。む
 小。思。慮。な。し。し。れ。よ。と。輕。と。小。子。或。い。ち。ち。或。い。惑。ふ。に。胸。通。り
 し。が。頼。ま。れ。し。の。ま。を。采。小。等。閑。小。も。な。り。さ。り。て。面。目。な。な。れ。ど
 糸。り。し。の。ま。を。托。し。所。被。傳。ふ。さ。り。其。義。を。及。井。小。扶。れ。な。り。
 小。子。も。又。な。れ。と。湖。小。娘。が。思。ひ。あ。ら。ん。然。し。と。殺。日。を。終。る
 の。ち。他。家。へ。聘。娘。さ。る。る。ふ。是。下。の。情。も。辨。り。ま。す。唯。遠。上。の

足下の御心。ひとりりて渠も自もむらひぬまのふきと。
 総沖了等と頼客。と言は小千代大御所。此中御心やう
 渠女外小密夫ありて。願ふ僧を本下と約せし。僕と頼
 兵へおりのせし。のたうん。外ある彼女と今更何をせん
 べき。然れども惜き所なり。遠の報恨。渠奴おと大
 小園の慰まん。といふ小業。若さあはぬ侍中。備へ懐ひも
 同くぬ義を承所。面目のたうん。貴お先りりて。約し
 ぬのと知るたうん。いりて。銀をりぬべき。乃夫遠義のあり切
 り。自とせし。故せり。貴所の約束を愛せらる。乃子
 奉言る。遠うへ。自媒約し。き。おが縁合倍尊ん。とく
 誓の準候し。ぬ。君の御心。御心。乃子言候。たうん。

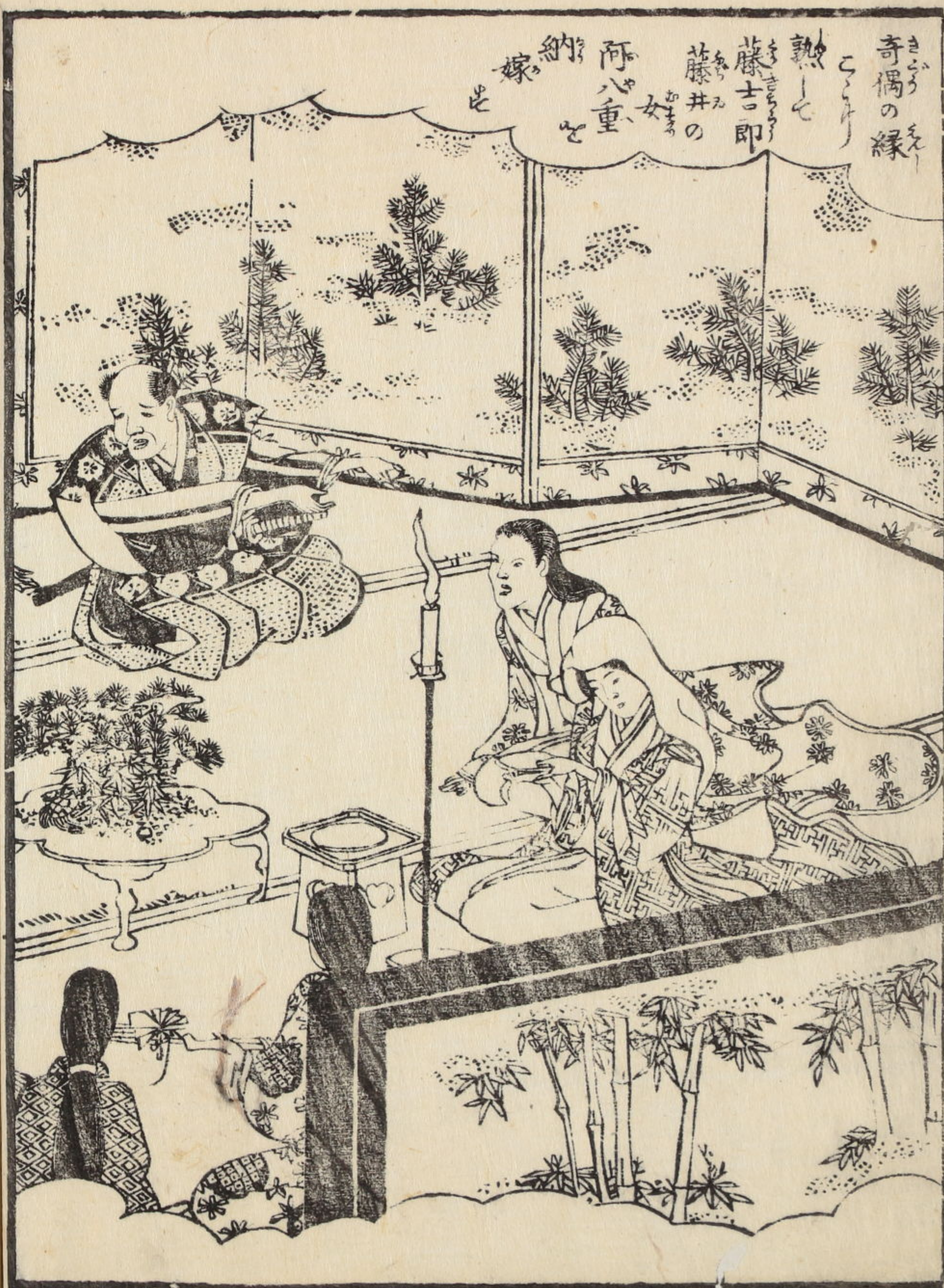
何の噂もあつた。偶亦は后彼娘。貴所の約期と違ふと。
 他家へ誓の。ぬ。もせ。乃子言候。叔と。媒約の。酒家
 の解嘲。これ大丈夫の一言。鉄石。と。愛せし。と。叔。ぬ
 中。小僧。了も。智謀の。吉も。い。思累。赤面。せし。
 小千代。見。案。備。推量。小。お。違。う。着。よ。着。よ。懸。ひ。奴。情。お
 辛。漚。吹。せ。て。ら。ま。ん。と。控。く。何。と。懸。し。か。し。と。足。中。の。快。ま。の
 帰。り。ぬ。御。心。も。及。井。も。乃。夫。の。た。ぬ。付。ら。ま。ん。行。時。も
 疾。く。ぬ。ぬ。と。大。千。代。潜。小。お。び。つ。及。吉。郎。を。返。し。ぬ。と。新。く
 本。下。の。吉。の。恩。園。一。と。及。井。が。お。ぬ。立。度。を。面。目。の。け。小。村
 面。し。ぬ。始。終。を。懐。り。た。れ。ば。又。お。ぬ。も。尚。惑。し。ぬ。と。恩。園。の
 深。き。本。下。の。た。ぬ。定。心。の。夫。も。有。ら。ま。ん。と。要。時。安。途。一。居。る

西へ大千代自ら訪来る。又右衛門の忠を听。奈何なるや。又
 叙せんと怖くこれを出迎へ。實との席の定まる。响若田大千代
 言を申す。唯先遣く御息女を懇せし律おつた。今日本中
 傳説あり。蹠蹠伴ふ承す。乃夫望へり。截す。備其門徳の
 像お属て。唯草々某伴へ。晞投つた一義あり。律とりよま
 貴不の息女。預へ本下及吉希。と誓信する律ある由也。唯
 七重とも不承し。唯先別本中承す。及吉希も唯(義を
 して大千代不望を止せられたる。及吉希も約を交す。息女を
 不通おるべし。と唯(の俠言。誠おりり。乳の煩文也。依り
 乃子媒妁しく。誓姻の義を草めり。貴云へ言容るなり。息女を
 及吉希へ嫁らせし人。厥もつた。响乃子。唯中。行時も律

乃(は)只(に)當(り)承(せ)給(ふ)あ(れ)う(と)听(き)て(は)及(は)井(は)さ(し)高(き)を(は)送(ら)せ(給)ふ
 拘(こ)感(かん)ふ(と)大(お)千(ち)代(は)已(に)推(お)了(す)し。是(を)以(て)只(に)今(に)返(し)答(を)听(き)て(は)帰(か)え
 と(妻)たり(と)又(は)右(の)衛(門)の(息)女(を)瘡(を)治(す)と(呼)び(て)誓(を)交(す)る(や)う(と)誠(まこと)
 唯(の)子(の)あ(は)れ(も)微(こ)し(も)苦(に)な(れ)と(の)を(謀)る(と)子(は)亦(も)自(ら)己(が)言(の)
 既(に)奉(じ)止(つ)る(律)推(お)送(す)ん。是(を)以(て)只(に)今(に)返(し)答(を)听(き)て(は)帰(か)え
 没(は)て(は)い(ぬ)也。御(お)思(は)材(も)さ(し)ら(れ)る(は)友(の)個(の)者(を)唯(の)后(へ)所(を)志(を)
 楚(と)問(は)極(め)然(し)と(御)善(い)小(既(に)承(せ)ん。と(の)あ(は)れ(大(お)千(ち)代(は)厥(も)あ(ら)ん(と)
 笑(わ)門(は)小(投(な)す(帰(か)れ(る。唯(の)あ(は)れ(井(は)熱(つ)く(思(は)棄(す)し(何(れ)娘(を)
 唯(の)听(き)せ。律(も)も(高(き)吉(希)へ(嫁(せ)た(ら)ん(と)律(も)納(め)る(ま)じ。且(も)本(中)の
 唯(の)智(ち)抜(は)群(れ)し(と)賸(あ)女(吉(凡(る(と)唯(の)天(は)亦(り)し(は)仕(者(の)り。
 唯(の)子(族(も)多(く)な(れ)ど。智(ち)極(と)為(る)者(の)も(な)れ(ば)及(は)吉(希)を(は)子(



奇偶の縁
 熟
 藤吉郎
 藤井の
 女
 阿八重
 納
 嫁



備こそ自と雖もさうん。其の市前へ披露しんぬのまゝ小困め
 られん。と其家新籍を記しつ。池田勝三郎と以て呈露せし。小
 澤所僧なく御許容あり。即日良辰小當りぬれば。聘禮かご
 とう小金儀をせ。於八重とりつて後若郎へ干帰。誓礼の式まり
 せふさるる夕三星天小立。挑矢くとしとお對せ。これが為小堂上
 堂中。盤と添ふ。盤と潤ふ。千秋の賀韻を誠小満なる

後若郎交山口奉行修理 属 智伏諸匹

桐樹の長むる梓。一歳小火余万本られ小暨ぶりのぬ。其
 多豊を岡が花號とさる兆。大既這さふ出接するさうんか
 指バホ巾後若郎へ。後井が娘を娶てより。念忠義を想ふしん。
 勤仕小澤果なるさる。其年二月廿日の朔大風起て清洲城の

備若楼など大に破換を。信長これと山口九条次郎小令せられ
 へ。修復のりと僅さる山口小令と奉交ん。三月の上湖よを執
 をり工西元完と夥く收しん。二旬余も煙さうし小僅小暨垣
 三田丈並懸しするのまおしん成務はま日遠ふる人さう。开も
 遠山口九条次郎とのり者へ。萬國鳴海の城を元馬助盛晴
 盛晴へ愛智郡星野庄の大内孫太郎仕世の長子
 太即盛晴始て山口と林を元馬今へ盛晴の二男あり
 の士ありしらバ自己に能と獲侵せしを。信長まご婚さす人さ。
 のりし者不和とありて。近來竊小今川義光と親之。叔母
 傳殺を記し信長と戦ひしが。偽て降参せり。因て九条次郎
 を人質に。元馬助へ鳴海小居て快より今川小歸属せし。久
 清洲城中の消息と一く駿府へ告知せ。遠次城中修理のり

とも父が伴へ細遣しおまひ義元遠く上洛の事あれば。節の方便お修理の緯とも後としく流丈夫お修復せう小庄
 做る由お信長叔城中の諸士までも何の心も属さるる。唯
 及者希の成就のまきと怒ひ。熟く山口の所行と窺ひ。奉
 らしお帰されども抱擁なれば外せを潜よむを痛むる事
 會信長鷹道途と恩記。日月七日上刻自云千余人と
 俱しおひ及吉部も加らる。城外へ出られし。今思へ修復の成
 ざると若くは所見あをどく。属意あふあや。と懐ふお信長
 せを豹と詛めつゝ急せおふと。及吉部へ懐ふ心。危哉とくと大
 者声お呼らる。信長眺と眈て。小猿め何と叫ぶる。益の
 難云吐散し。元のおと惑る。と言持約と移めおふと。若

刺し走倚借も危し借もあやふしと暮びる声お呼らる
 信長豹と詛られ奇怪の相をり者る。予が抱覧の妨け
 なく。猿めお呼らる。と村井長つるお會下まひ清洲へ。若
 を返さ。其ま。鷹野お進まれまひ。終朝集鷹とをま
 役し多く兎野の獲おあり。申渡るに。孫城し。おひ村井と
 ゆる者。信長の意お出させ。汝いさるる。あんく。我が放鷹の
 途お條。危ふしといひ。何緯ぞを理と言ま。明るる。お
 その来お免し。と声烈しく。怒らせ。及吉部。拜撲て
 言ま。若くは清洲の櫓石垣。破換の緯と知ろし。あさ。お
 一。點は猿冠者。殺日と。後。破換。お。後。は。知
 くれ。お。命。既。お。修。復。と。さ。い。む。お。い。う。ら。れ。ば。と

危きぞ。一統まばの既小被復を命せ玉つ。今日舊世の所次途よ。
 彼使復の成不成とど所推察のそなきむや。今戦國の
 時小く。且遠尾張の八面敵地多きる方もなり。徳川の
 溝深石垣など。修理速くおせ玉んばあらず。其おるんぞや廿日
 経まども。いさよすもそのへざるのそ無準備の才一なり。小子が
 危しと言奉しんそなり。と所しなされて上総助其内既小被
 復あり何とて予が由りるらんや。修理大遠おしく容易なる
 ぬの日を経まよとそ難なり。といふも若き遠より。君小を
 知しゆきまや。そは織人のありるらん。世のむおは徳ありん。
 初等采小日と経るらん。従令新域を築けよとて五日十日
 もめりるらん。大堅成死をさきりのと。百回計の修理とせよ。

初より日殺と経ること怪し。徳の思さむとやと所て信長。厭ハ
 と言なり。及音節はけの意りそ。那何ぞ。備まらぬ。汝お命を
 速お成さむといふも。小は命を奉。修理のせよ。つらつら。二日
 のうち。丹精しく。成純の言。言さむ。と所お信長。本下。
 炭薪未穀のせよ。しく。徳功の預て。おしめされ。おほく言ま。何
 と思され。兄の言と趣く。山口九兵衛。命を唱出しく。遠慮。西存の
 有ふより。公解と退く。体息せよ。と。保せよ。山口借。我が機密
 齟齬せし。と。悔めど。詮なく。命お伏し。極感。おと。公解をひき。
 自己が。おふ。ち。帰る。暮び。言を。唱出され。汝。命を。明日より。
 三日のうち。修理。成純と。丹精。なる。言。お。命。せん。い。う。ふ。と
 保。お。本。下。拜。候。い。う。心。虚。言。を。言。快。ま。さ。き。速。く。お。成。就。し。り。今。え。

呼有る。と。所奉り。一。武の者。又。退陣。り。藺笠野。た。う。ま。
 陣。中。袖。竹。節。突。つ。ち。拾。へ。遣。理。殿。小。到。り。と。工。匠。ど。も。ハ。不。審。
 一。と。巴。目。な。し。く。ち。る。言。が。顔。を。何。ま。つ。び。見。返。し。見。え。し。山口。殿。
 の。退。任。ハ。今。し。う。つ。れ。れ。ど。も。後。の。甘。杉。の。精。殿。と。ハ。思。ひ。も。よ。う。ら。
 ぶ。と。初。次。ハ。行。の。者。小。珍。ら。し。う。置。く。し。と。ぞ。ま。る。と。本。下。殿。
 吉。前。声。多。く。我。今。日。を。君。よ。り。遣。修。理。殿。の。甘。杉。を。蒙。り。山。
 口。小。交。代。し。う。汝。等。一。く。我。下。知。と。背。を。大。切。か。む。へ。し。ま。づ。
 今日。ハ。休。息。な。し。棟。梁。品。ハ。我。公。解。へ。言。合。せ。来。ま。へ。し。言。傳。を。
 伺。律。あり。と。耳。痛。さ。む。と。ひ。ま。り。し。う。ば。元。工。各。々。致。さ。さ。り。う。う。
 皆。そ。の。業。を。作。止。く。自。己。く。く。君。お。小。帰。り。棟。梁。品。の。と。珍。り。
 居。て。本。下。が。公。解。へ。後。候。な。し。う。ま。と。氣。味。苦。く。踏。ま。る。及。吉。前。

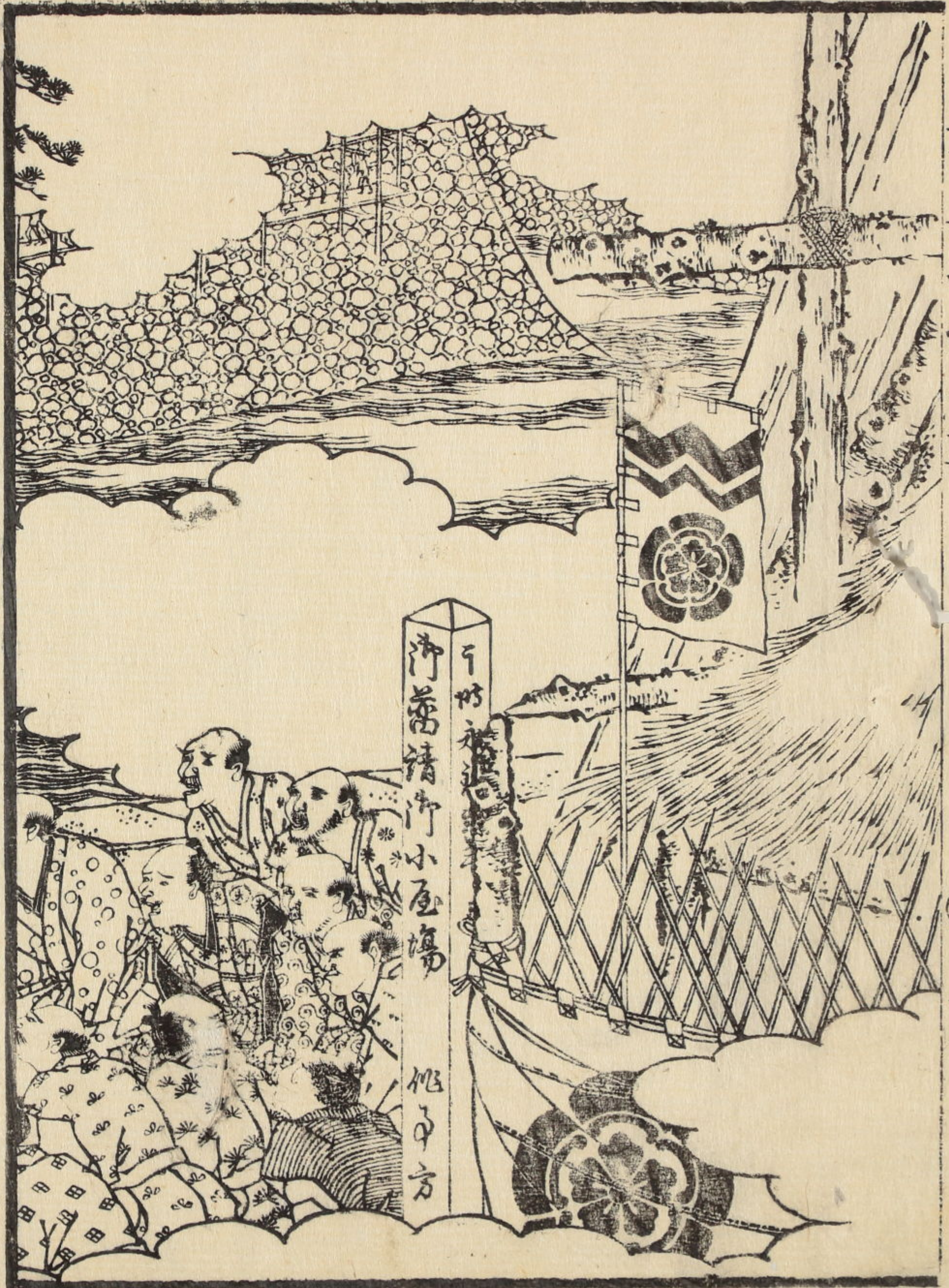
席。と。替。一。言。傳。され。る。や。う。ハ。這。次。は。う。の。修。復。を。り。く。思。ハ。の。
 外。小。目。殺。後。よ。一。市。上。の。口。氣。色。宜。し。う。ば。是。お。同。く。乃。郎。小。奉。
 行。々。今。届。られ。し。う。今日。別。衆。の。上。云。あり。と。謀。射。樓。等。修。復。の。
 と。と。二。日。小。全。く。成。終。させ。よ。と。踏。す。う。ぬ。思。を。お。入。え。有。ぬ。れ。ど。
 御。作。量。を。と。承。ま。す。二。日。の。うち。小。成。終。さ。る。候。な。し。依。今。日。ハ。
 休。息。な。し。借。明日。より。二。日。と。限。で。竭。力。丹。精。し。し。う。ハ。修。理。成。
 ざ。る。と。う。ら。ぬ。一。初。言。さ。ば。汝。等。も。在。陣。の。下。知。と。思。ふ。べ。な。れ。ど。
 よ。く。く。自。己。が。む。と。責。活。業。と。し。て。振。く。お。ぬ。と。理。無。當。の。う。ら。ん。
 や。今。ハ。これ。我。國。な。れ。ば。武。士。ハ。勿。論。臣。民。た。お。國。を。城。壁。の。為。を。
 思。ひ。粉。骨。碎。骨。の。と。矣。一。毛。唯。君。の。為。の。を。つ。ら。む。と。ぬ。ぬ。み。く。が。
 身。の。上。の。安。穩。さ。る。と。思。ふ。な。り。今。某。方。遣。一。個。と。し。て。清。洲。

お妻子のつたひあるまじく信遠城へ隣國より款進せまらば
 妻子といふに安撫するべきや。道理と申すにかりひつるに
 丹精のよき候を今も不成乾のまざるに。そあるのそごり
 たり。我も彼候と申すに。場所百間あるに。石垣の
 築の預中地へ成束つらん。築くは文礎の材を居く。柱を
 通。まうして壁とあるのそなる。一箇の三人としく。三百人
 かりな。百間の壁成乾せん。めりとも平日の修復する。中
 食の休息あるに。十日余てもをなれど。遠連の修復の
 るれば。一日とりて十日の匠師候べき間。休息なり。小
 是が。あ小月日へ。より少し。許ふ出度し。人技を付て。公
 小投ふ。人殺の初配混雜せぬや。明初次。言保さん。まづ

今日へ休息せよ。と。暁さむて返り。蘇山口九条次第。我
 一修理の儀に。儀冠者なり。と。所より。愈怒て。工
 情。小棟梁を。招依せ。五分の金を。あての。中。油
 かい。小謂も。那許と。小付ら。一。柱。一。つ。退
 魚。う。む。懸賞せん。と。切。小。口。属。それ。バ。棟
 の人。技。小。懸。と。云。所。翌。日。蚤。より。出。役。し。公。解。一。符。札。を。收。る。响
 本。下。渠。等。と。厚。く。勞。ひ。よ。く。こ。を。ま。く。来。り。一。七。先。今。日。よ。り。丹
 精。せ。む。地。バ。日。定。め。一。如。く。一。間。小。属。三。人。が。り。目。属。せ。ま。方。觸
 せ。ま。む。業。と。励。む。べ。し。運。の。人。技。ハ。員。二。百。人。分。付。れ。ば。一。間
 につた二人なり。小走帮傍の者も別ふあり。工匠へ先柱速ふら
 べし。柱速るは棟とまふ。柱と壁心と。壁心と。柱速るは



木下
藤吉郎
奉行職
命也
三日之内
清洲城
破損を
修補す



清洲清洲小瓦場

此方

尤完小属の土を塗るべし。かくらむを於縁をくくべし。と仔細小を
 指圖し人技を修理場へ探投せり。此れも職人等ハ山口を内
 小よりて更小者吉郎が指図を用ひて何なる傾復の妨せんと
 礎受石垣の全休も。とぎとこれと穿壞し。或ハ勅らぬ石を例
 柱の根とまり横と折。木下が陰小よりてハ則小ありとぬり
 業と疾くも高舌察せり。惜き奴們が所為なる。これぞはやく
 山口が職人等ハ囑賂と畜妨けるをとせ入らう。今まこのまを
 きびく智めハ念困多多くし。三日小成轉まらる。さうハ
 我れ渠奴們を謀果せハ山口。密計のうらを捲らんと人
 扶ぐ愚業とわぬ体ゆえ。預ま二分も出成らる。折とお
 鳴し人技們小休息させ。公解小呼てのそらり。借く汝ち等

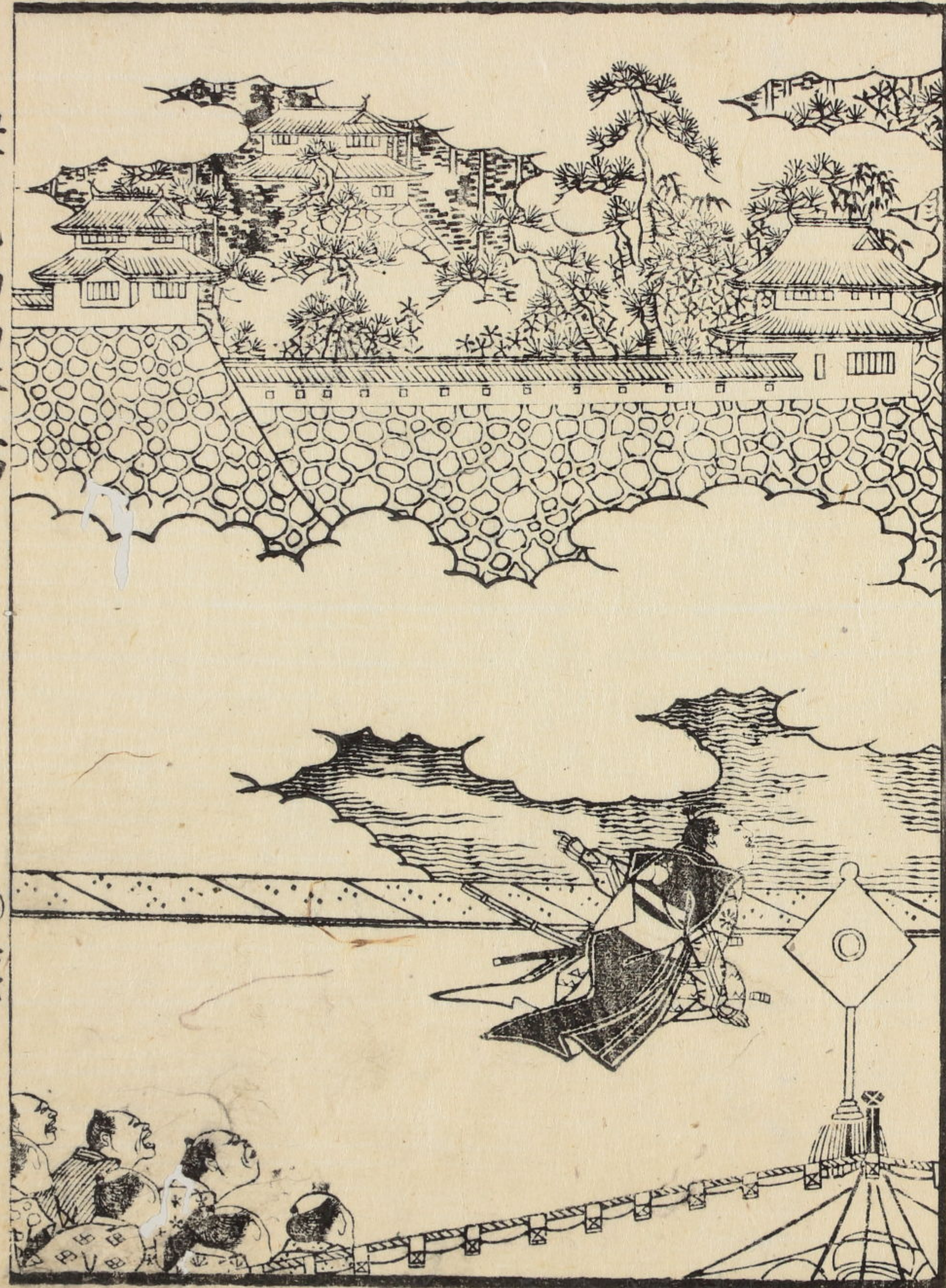
丹精しハ懐のハ小果違らう。此れと唯今市上よ。市酒
 市餉と賜安也。某等們が勅勞を慰むべしとの市惠を有
 ぐく存し。此れが心を厚くおぼさる。律。ゆれの國皇の例
 あるべし。さうハ思と御さ。と理を説道と掃させれば流る
 思慮のさ職人等も。酒食と團皇の恩義小威ト。飽ませ飲
 飽ませ食ひ。あうしハ各々業領の持場とへ投足らん。此れ
 亦く及者即出来。職人等諦小。君より市来下せらる
 されし。職人総計八百人へ智目二百費文を賜らう。此れ
 不時の市復英なり。いよく日浪三日のうちハ修復せらる。此れ
 成乾せ。智目といさ智玉なる。去来は拜と。これ
 されハ棟梁をと親と。諸人扶を懸浮の肝小。此れとふ

とく懐ひ首子の所作と後悔し。山口が愚意を思ひやり。ゆり
 本中が深切なる不帰伏しく。骨を惜まむ力のあるま。丹波場
 しの懐くや。本中の見て情小悦び。今のやむ安し。実なるうな
 慈小還ふ。賄夫の平生利小流る。万人の情。と遂小崗日の
 薄きと。借り。借翌日の未明より。公解へ至投く。中辞を
 かそしと。信りどお。友吉即出来ゆ。ゆ。溫和小款待つ。今日の
 あゆり小登り。定めて邦中本も暗くらん小。誤失也。あつて
 軍し。う。定。要時休息し。と。る。ね。善も申。小。息。と。言
 ことせ。獄人ども。吳口。月。様。小。善。て。ゆ。あ。う。俺。時。と。言
 かく。登。く。記。出。これ。ども。素。沖。火。急。の。沖。修。復。お。し。と。日。員。も
 決。ま。し。へ。這。来。登。り。み。か。さん。小。沖。叙。免。あ。れ。と。謂。つ。も。自。己

おのれ。學。場。へ。を。性。味。日。小。増。て。懐。く。く。あ。と。小。中。う。ご。日。の。平。小
 至。ら。ぬ。く。も。天。才。成。就。あ。る。く。く。と。及。吉。即。又。小。悦。び。中。と。拵。を
 擧。げ。て。諸。獄。人。を。休。息。さ。せ。昨。日。の。如。く。褒。詞。を。か。く。酒。饌。を
 渠。等。小。見。せ。ま。う。く。な。ぐ。く。汝。們。も。量。の。う。ち。を。強。く。飲。食。の
 滓。も。味。ふ。ら。う。ま。と。赤。下。別。の。頂。天。上。り。ま。く。收。束。せ。ゆ。め。く
 喫。せ。よ。厭。は。し。う。く。と。や。と。謂。さ。と。小。中。一。月。最。と。法。法。さ。る
 せ。あ。り。く。く。愚。を。謝。し。て。懐。く。く。お。と。及。吉。即。又。拾。し。て。弟
 を。立。て。弟。ひ。り。ゆ。う。汝。們。厭。ま。を。小。彩。身。し。る。に。忽。ち。疲。ま。く
 病。ひ。や。發。ん。ま。を。一。懇。ふ。て。身。を。と。の。ま。れ。よ。鑑。新。の。員。手。を
 あ。く。ぶ。ま。た。膏。葉。を。賤。ん。小。と。菊。の。小。の。慰。め。見。込。る。あ。と。小。本
 寮。を。報。し。く。空。毀。釜。の。難。上。身。を。本。中。と。り。て。神。の。ご。と。く。

考び致寸際ともども。をひ徳つふる隣こなり。高ま実ま修あ理りを速く
 二。國とく色あの恐小お報むひん。と粗忽その作業しつくふらく。最も大たい切せつ
 つとめられば。終つう二日じつが其間ま。小こ謀まひげくまじらず。然しかりぬ。時とき刻こく
 とと收ませり。公こう解かい小こ集あめて。酒さけ食じをさめめ。本ほん中ちゆう遠と小こ出し座ざ
 しく。其その門もん々々今日けふの搭き。搭別べつのことなりとと。君きみの所乳じゆ
 色いろ結むふらうく。亦またく所褒ほう受じゆ二に百ひゃく貫ぐわん。所ところ朱しゆ々々をりて賜
 安やする。亦くけらく所ところ奉ほうせよ。と波せん危けい夫ふう應おうえん。みみるる
 中ちゆうを感涙なみしく。これと頂とう裁さいしたまへて。徳とくを隣ともとささいえと
 先さき達たつてより廿にじゅう日じつをらう。空しく日教にっけうとうせしとと返へらく
 もおろく。後のち悔くわい千せん万まん。胸むねと嚙とも淫ささいぬじ
 それのいふも先せば山さん口こう大だい人にんの中侍じゆう小こよらて。急いそぐをゆらく

せよとの課かせん。いうらる所ところ存ぞんなりらる。所上じやうの所意いとく雲うん
 泥どろなり。今いま更さら思おもへば山やま口ぐち大だい人にんの中怪くわいしくゆなり。と各回かい自じ
 説せと後者ご郎らう。狂くるふ睡てりらるが。知ちくぬ類るい中ちゆう危けい夫ふうが搭きと
 のあどとと稱災さいなり。其その夕ゆふに霜所ところへ帰せける。備び聖せい日じつも登朝ちゆう
 より。工こう業ぎやう小こ役やく足あらん。と勇とらるを後ご者ご郎らう。中ちゆう侍じゆうしく回く。
 今日けふ面めんが作とところ。大工だいの射楼しゃろうの結構けいこう小こめたす。尤また完かん
 とまてて壁かべとつけよ。人ひと扶たいこれと帮助たすけく。丹たん精せいせよとりふ
 中ちゆう小こ。湯ゆく恐しく搭きらるが。射や楼ろう壁かべ等らう々々。成なり純じゆん也や。
 本ほん中ちゆう色いろを巡見めぐみしく。褒ほう受じゆなりつる機會きかいとあれ織田おの殿との
 うねて契約せやくの日限にっげんもわ今いま日じつをさるを。俵たわ復ふかの中らを
 いうふや。と扈從こじゆうらるふ百俱ひゃくしひ。七しち九くへ成らせぬふ。



豊臣

六



清洲城の修復
三日ふ成就
すの暮
大將とつ
出覽
木下
神速と
驚感
せ

豊臣

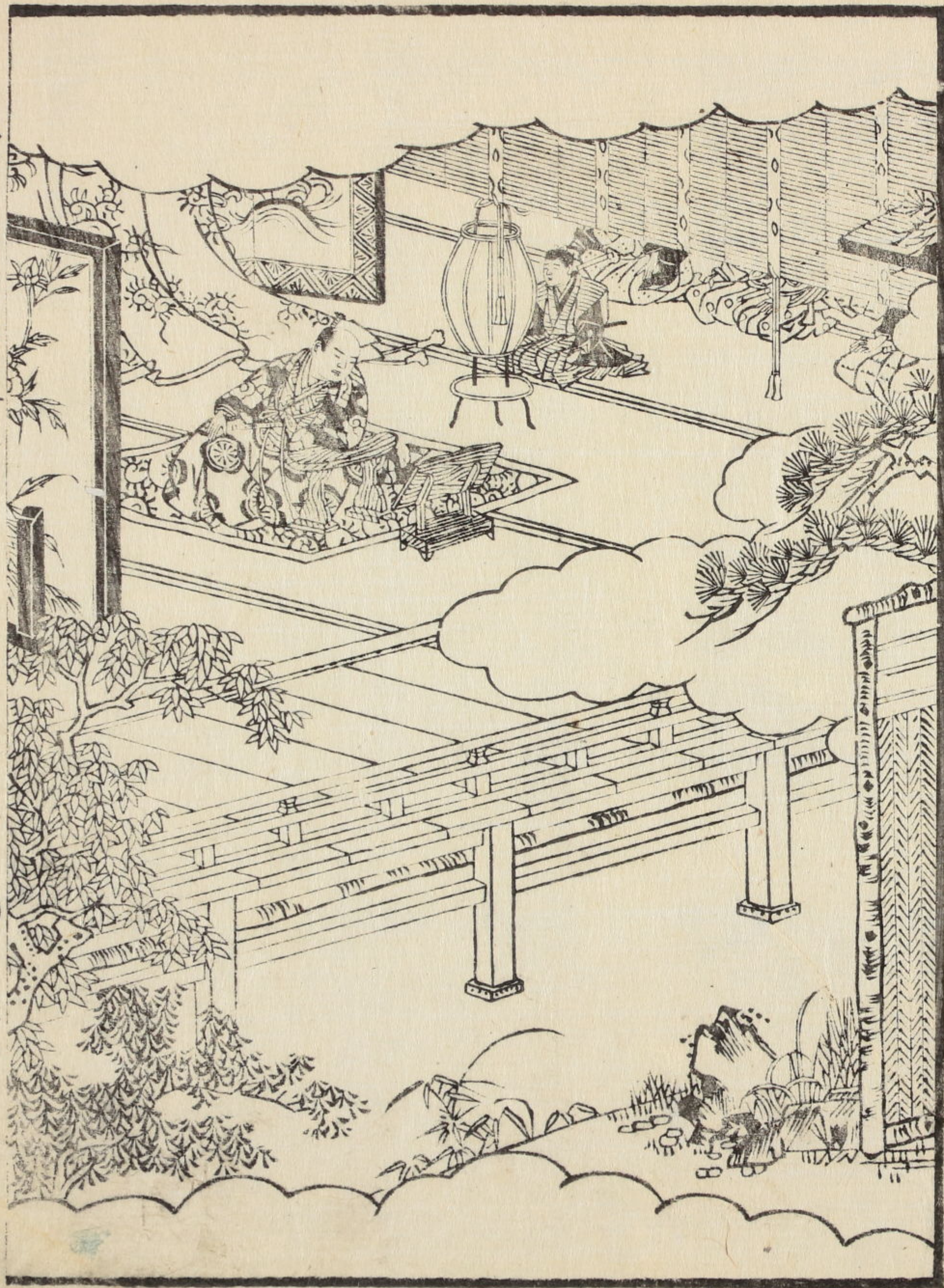
六

百回余の被換場へ。多の委とよく成給なりし。射棲やせ磐垣いわき謀まをも
も。確たしくとして速連すみづらねらり。信長のぶなが不思議ふしぎ小か不ふしゆ。釋あきらく
公辭きよひお授まむ。及吉郎よしろうと唱出なげだされ。よく神速かみすみお成給なりせり。
大功おほいさなりと所褒ところほ美ありしを。及吉郎よしろう平伏ひらふくし。これ小子こわいが
功いさなり。單ひとお君きみの所威ところい光あかり也なり人扶ひとたすも粉骨こなほね碎くだれせり。
厥そのもまた釋あきらお何なにとして。二日ふたひお成給なりまらんや。恰あたも渠みちなる
本寮ほんしやうぞもへ所詞ところことば賜たましかりるべし。作あそで然しかひてなまらる。と言い
まふ信長のぶなが実まおもと思おもされ。棟梁とうりやう共どもを呼よび出ださせ。所声ところこゑ
ちかく。このごろの粉骨こなほね大儀おほいぎなりと宣のたまひつ。まゝ言いふおも
最厚いそく。褒称ほうしょうありてそをくせぬ。及吉郎よしろうへ人扶ひとたすを率ひく
修理しゆり成給なりせる悦よろこびなり。と酒食さけうを多く并なへつ。款待くわんたいなる

ちどお八百餘やっぱくじゆ人の人扶ひとたすども。おろふまふおそせり。夜よの添そへ
て毛け降くだりたるが。响とこお本ほん下した及吉郎よしろうの所ところ朱しゆ卒そつの釋あきらをむ勞らうせり。
然しかるふ織田おだ殿どの這次このときの及吉郎よしろうが功いさを添そく感賞かんじやうせられ。百貫ひやくくわん
の給たまり加増かぞへを賜たまへる。池田いけだ勝三郎かつざう信輝のぶてる命いのちを奉たてて。知行ちぎやうの
賜たまひを後ごへる。响とこ及吉郎よしろう池田いけだをりて言い快こころしなる。所ところ
加増かぞへの義ぎお入いれりあり。よく謝あやまり奉たてる。然しかるまぐら。這この所ところ
褒書ほうしよの由よし三年さんねん間返まへおきり。其その易やすく。只今ただいま二百
貫文くわんぶんの存ぞん目拜借めがせり。よく。お給たまへる。所ところ及吉郎よしろうをへゆまじ
と言いを。織田おだ殿どの聞きしゆされ。加増かぞへの武士ぶしの辱のろむところ。世
財さいへ眼がん糸いとの利りのそふく。武家ぶけのいむ。死しおる。と。い。う。なる
所存ところぞんのある釋あきらめや。と思おもされ。ちども懸賞けんじやうつ。そ。バ。所ところ及吉郎よしろう

任せ賜たまはさるる。吉よかぎりなく其き悦よろこび。修理しゆりせし俄あや人たひを呼よび出だして。二百にひゃく貫くわんを賜たまへり。其ま中なに。君きみも近きん東とう軍ぐん用ようの費つひあまさるる。二百にひゃく貫くわんを賜たまへり。余あまは。此こゝに遊あそぶ。沖おき放はな揚たるべし。異い儀ぎなく頂たか裁ざいし。されよ。とあへる。こゝに殊あま勝かちる。若わかき。山口やまぐち九く年ねん次じ郎らうへ。密ひそに謀まりし。城しろの修あ理り本もと中ちゆうが。あふ内うち謀まを控とえて。今いま川が義ぎ元げん上じやう洛らくの城しろ會かい清せい洲しゅう城しろを攻せ落らくさんと内うち通つうの。ゆるも。虚うつしくありし。の。と。さ。う。は。結むす句く信のぶ長ながの。沖おき若わか首すく尾びあ。く。不ふ快くわいの。色いろを。赤あかく。する。と。及およ吉きち郎らうの。と。是これを。識して。若わかへ。情じやうう。ふ。い。る。を。言い快くわいせん。と思おもへども。小せう為ゐか。し。之これを。能よき。初はつめ。あ。り。ぬ。れ。ば。沖おき若わか大だい出だる。と。人ひと掃はき時ときあ。り。と。急きゆうに。言い快くわいさ。る。と。死しを。素もとより。多おほ量りやうの。さ。る。吉きちな。れ。ば。柔じゆう道だうの。

便たしか。ら。う。ふ。学まなび。柔じゆうを。臨りんし。て。進まめ。る。ふ。其その服ふく加か減げん他たふ。異いな。で。自みづか若わかの。沖おき若わか名な稱せうふ。れ。ども。信のぶ長ながの。唯ただ柔じゆう道だうの。独ひとりと。の。を。思おもは。れ。り。一いっ個ごの。柔じゆう道だう。と。さ。へ。及およ吉きち郎らうが。臨りんし。て。い。り。と。言いせ。し。く。織お田でん殿でん不ふ審しんふ。思おもは。る。は。彼かの猿さる形かたを。柔じゆう道だうふ。よく。も。違ちがひ。り。先まづ。い。ひ。出だして。臨りんし。て。言いせ。よ。と。即すく對たい沖おき若わかへ。呼よび。出だして。臨りんし。て。言いせ。る。ふ。服ふく加か減げんといひ。所ところ作さすといひ。殊あま勝かちあ。ゆ。亦またし。と。い。れ。ば。信のぶ長なが。汝なんぢく。感かんず。と。い。ふ。我われも。亦またし。と。い。ふ。吉きちを。よく。も。喜よろこむ。事ことも。情じやうう。ふ。沖おき若わかへ。訴うたへ。る。は。及およ吉きち郎らう柔じゆうを。奉ほうる。ふ。中なかに。自みづか己かが。一いっ口くちの。を。我われも。し。て。餘あまを。と。撃うつ。る。なり。と。諺ことわざ言ことを。所ところい。ひ。信のぶ長なが大だいに。小せう怒ど声せいを。さ。る。ち。小こ猿さるめ。予これも。吞のみ。踏ふを。祝いわへ。り。と。言ことを。諸もろ様さまに。い。れ。と。即すく對たい沖おき若わかめ。し。よ。せ。言ことを。い。ふ。及およ吉きち郎らうは。こゝも。怖おそま。た。



茶方ちやうほうの因よ藤吉郎ふじきちろ
 牆内かみうちの危急きんきつを
 言状ごんじやうせんとき



小辭と地ふつひ。今の如く預てより。はる吞之跡を献せし
 ことへ相違もるは義おてい。おまむらうと若ぬへ。天下一統
 の恩教ありと察しおぬくは。其故初つらまらぬ。実小
 四海と併吞し。万民を鎮撫せんとかかりぬ。さる後吉郎が
 吞之跡をぬへ。はるるべくい。且まる尾州一國の。まふく
 終せむとぬぬ。後吉郎がぬれと責。斧戒の誅とかりぬへと。
 听しぬされて信長の。漸く瞋とぬぬ。その所謂い
 小と問をぬぬへ。這とたる吉進士とぬぬ。河内わらく
 勝つ。消しぬ言快つらまらぬ。山口元馬助。目どく九郎
 次郎。若小降系つらまらぬ。其か産と探をぬぬ。今川
 義元の。魁隊をぬぬ。上洛の道と関わん。と快より謀をぬ

なり。小は時く窺ふて。其端く見せり。まら其効い
 海小在城し。子息九郎次郎と。尚城へ寄るはこと。こま
 及問のさぬぬ。先日修理の奉初つらまらぬ。容易小成
 いささくも。金くこのぬぬぬ。怒る時長は榮
 ぬぬ。膳夫ぬぬ。飲食お大切なり。且朝夕の御膳
 ぬぬ。鬼つらまらぬ者ぬぬ。御業をぬぬ。鬼こまらぬ
 ぬぬ。小居まらぬと存ド属。初つらまらぬ。一危は腕の
 御望とぬぬ。林小大切なる御分ぬぬ。一危は腕の
 めしぬぬ。情とぬぬ。言しぬぬ。小織田殿
 も。系来明察の良ぬぬ。快其むぬぬ。とさぬぬ。さぬぬ
 ぬぬ。言を條。その理とぬぬ。予よく謹とぬぬ。護らん

且山口が謀叛あること予預てこれを憐れむ。汝等が
 ことなればと命せしむる者謹んで今及人の山口父子。今川
 家小属たるうへ。智多の一羽のさるはて。所款とありけ
 べし。中不徳くはまらるの義元を二の志居する。戸部新左衛
 豊政とて。智勇拔群の武士なり。彼所の若くは
 山口今川小属たる護衛。居位。海とまらるる
 其際つらう。其戸部新左衛門と安徳小使しむ
 こそ。金く。駿府小同士の證あり。控らば今川山口が
 謀ふ者。うふて。比方。又工夫を設け。戸部新左衛門を
 敵へのち。山口父子を滅さば。義元這へ推進るとも。足踏
 の場。おなれば。軍のこめ。小利あるべし。と言ふを。信長

听しめ。戸部小容易の者。うらむ。奈何なり。とうちとる。應き。
 恐い。戸部の名。譽の能書。小て。筆色。迫迫。お偽りのなり。
 これとありて。謀計の。うねと。なま。べき。その。執方。の。好。條。く。
 如件。と。と。密言。と。さ。や。り。小。言。状。し。られ。ば。信。長。小。威。威。
 一。か。ひ。雀。躍。さ。る。ま。て。悦。喜。し。の。其。夜。悄。々。地。小。機。密。の
 信。家。亦。之。在。門。可。成。八幡殿の六男。大冠者。義隆の子孫。可成。ハと。昭
 出。され。汝。い。う。ふ。も。工。夫。し。く。ま。ら。る。の。傍。當。へ。統。さ。り。戸。部。新。左。衛。門。
 と。討。索。ふ。必。他。小。知。ら。る。と。課。せ。小。可。成。得。候。咱。家。よ
 帰。て。召。さ。る。小。次。女。と。や。つ。一。曉。ぬ。間。小。清。例。と。退。去。途。と。急。ぎ。
 笠。方。の。城。小。投。着。て。清。紙。と。り。て。濁。紙。と。價。を。賤。く。交。易。さ
 ぬ。これ。か。と。と。と。あ。る。と。い。は。れ。ば。其。う。ち。遂。小。戸。部。新。左。衛。門。が。折

籙とほること三四帖。殊とも楯りし公地し。歎死くちの
返る。即時小臣君へ奉るなり。

繪本豊臣勲功記初編巻之四

